

人と人とのつながり

なぎさ小学校 五年一組 松澤 聖

自分達は阪神・淡路大震災の時には生まれ
てはいなかった。なので、そこまで気持ち
分らない。けれど、とてもしんどかったと
思った。岸本さんの話を聞いていたら、そう
感じた。しかし、それだけではないようだ。
その時にみんなは、助け合うという事の大切
さも感じていたと思った。やはり、人は何が
あぶない目に会って、助け合う事や、何か大

切な事を一つ見つけるのかも知らない。話を
聞いているとそう思った。阪神淡路大震災の
時、家に下じきにさえている人を救助した人
のほとんどは、親せきの人や、近所の人だえ
うだ。近所の人で、親しみがあるから守りた
いと思うのか、本当にあぶない、そう思っ
た時に、相手の事を思いやれるのか、それは自
分にも分らない。しかし、どちらにしても
近所の人達の協力、助けによつて命が助かっ
ている人がいるという事だ。それは、人と人

との助け合いの大切さを物語っている。やはり、みんなが協力して何か一つを守りたい、助けたいと思う事は、とても大切だ。それ以外にも県、他の国からも友人助けてもらっている。みんなの心がその時はつながっていた。そうすれば、もっと市ながりが多くなる。本当に他の県や国から友人助けてもらえたら自分はたくさんの人に守られている人だ、たくさんの人から応援してもらっている人だと心がまたたかくなる。少しずつ希望が芽ば

えてくる。他の人の助けによって、自分の心がまたたかくなる事は、すぐくすくすな事だ。そうして、みんながつらい日々をすごしてきてたという事を知った人も、すぐ心がまたたかくなる。自分も、今心がとてもまたたかいている。今日、話して下さった話を、もっといろんな県、いろんな国に話してもらいたい。そして、みんなの心がまたたかくなつてくる。頑張れる気持ちが出てくると思う。みんなの心がまたたかくなり、まごやかになる事を、ぼくは願っている。